

バイオテク産業の「今」

⑥

極荷台湾PABP(屏東農業生物技術園區)入居企業を紹介することで、台湾バイオテク産業の「今」に迫る。6回目は、極荷生物科技公司だ。

出条件を把握するのに技術が必要と王総経理。「当社

ccしか原液を抽出できない。極荷は、そのまま香水としても販売するが、希釈して「ハーブティ」のブランドを展開する。種のハーブティ。玉蘭シナモン、シヨウカ、パイヤなど、地元・屏東縣(縣は都道府県の意)で産出される植物だけを厳選し、エスエチに供給する。

地元屏東縣(縣は都道府県の意)で産出される植物だけを厳選した7種のハーブティ

把握するにも良い媒介だ」と王総経理。同じく王総経理が経営する外食チェーンのメニューにも極荷製品が登場する。さらに今年、旅行代理店と提携して、「食事とエステの

旅まで企画してしまつた。ばう・97億円だったが、来年初頭には生産工場をPABPに移転する予定。60億円の計画をすでに年商は、昨年1600万円を超えている。この項、(岡野)



王総経理

「成分抽出」が技術的な「売り」

極 荷

客接待の技術がバイオテクと合致

ルオイル、茶(ティーバッグ)など、様々な加工品を作りだし、販売する企業だ。この「成分抽出」が技術的な「売り」だ。「単に抽出だけなら誰でもできるが、抽

は原料となる植物を知悉し、ア国際發明展(Intex)で「金賞」を受賞した。もともとOEMが主体だったが、近年になってオリジナル商品が増えてき

選した。また料理の材料に「特にエッセンシャルオイルなどは、実際に身につけてもらう場を提供したほうが早い。気に入れば購入してもらえ、ニーズを

ばう・97億円だったが、来年初頭には生産工場をPABPに移転する予定。60億円の計画をすでに年商は、昨年1600万円を超えている。この項、(岡野)

ばう・97億円だったが、来年初頭には生産工場をPABPに移転する予定。60億円の計画をすでに年商は、昨年1600万円を超えている。この項、(岡野)

